◆重点普及課題

魚類養殖指導（沖縄本島地区）

水産業改良普及センター本部駐在　中村勇次

1．目的

沖縄本島北部では、陸上養殖で１漁協、海面養殖で４漁協が魚類養殖を実施している。対象魚種は、マダイ・ハマフエフキ（タマン）・スギ・ヤイトハタの４魚種で、それぞれの種苗配布や魚病診断に関する調整、販売促進等を行うことにより魚類養殖業の取り組みを支援することにした。また、クロマグロに関しては魚病診断への対応を行った。

2．材料及び方法

伊平屋漁協、伊江漁協、羽地漁協、名護漁協、本部漁協において、魚類養殖指導及び各種取り組みへの協力を行った。

3．結果

魚類養殖については、種苗配布の調整、魚病指導、ワクチン接種試験への協力、水無し輸送試験、イベント協力等を行なっている。

種苗配布は、ハマフエフキ（タマン）、ヤイトハタ、スギ、マダイの順に種苗配布の準備が整った後に漁業者との日程調整を行った。

魚病指導は、５月に本部町大洋エーアンドエフでクロマグロの斃死があった。水研センターの診断の結果、ビブリオ病であることが判明。薬剤投与で対応すると高価になることや出荷停止期間があることから、しばらく様子見をしていたところ斃死が治まった。８月に運天原のマダイで斃死があり、水研センターの診断の結果、イリドウイルス病であることが判明。餌止めや栄養強化した餌を給餌するよう指導した。１１月に伊平屋のスギで斃死があり、診断により類血節症と判明。漁協にあるチアンフェにコールを投薬するよう指導した。

ワクチン接種については、栽培センターにて糸満の上原氏のヤイトハタ９千尾への接種、伊江島にて山城氏のヤイトハタ１万尾へ接種した。

泊いゆまちで１月２３日に開催されたヤイトハタイベントへ協力した。前回の反省を生かして水研センターで事前に絞め方の講習会を実施し、即殺後の神経締めを徹底したところ、泊仲買組合からの身質評価も良好であった。イベント当日も泊いゆまちへ多数の来客があり、魚汁と刺身及び皮の湯引きの無料試食を行い好評を得た。

4．考察

魚類養殖については、生産に関する指導も重要であるが、販売力の強化に関する取り組みがより重要である。現在、生産に対する指導が主となっており、販売力強化に関する取り組みを十分行えていない。今後、本所の無水輸送試験等と連携しながら販売力強化に関する取り組みを強化していきたい。

伊平屋漁協の陸上養殖施設

本部町沖合クロマグロ養殖場の魚病による斃死魚（魚病診断のため水研センターへ）

伊江島魚類養殖場にて船上で実施したヤイトハタへのイリドウイルスワクチン接種

伊江漁協の魚類養殖施設、サメ被害対策のため一部の網をプラスチック製にしている

伊平屋陸上養殖施設で実施したヤイトハタ水無し輸送作業の様子

栽培センターで実施したヤイトハタへのイリドウイルスワクチン接種

那覇市泊いゆまちで開催したヤイトハタ販促イベントの準備風景